

		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進。②豊かな人間性を育てる心の教育の推進。③健やかな体の育成と、健全な食生活の推進。④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実。⑤教育環境の整備と学校安全の充実。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。	・漢字の小テスト、算数のふりくりテストを定期的に行う。 ・全ての教員が年1回以上授業を公開するとともに、授業研究を伴う校内研修を年3回以上実施する。 ・月に2回以上の放課後学習やさくらタイム・朝学習で、定期的に学力補充を進める。	・漢字テスト、振りくりテストの正答率が90%以上になる。 ・全ての教員が年1回以上授業を公開する。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上になる。 ・各教科の評価テストにおいて、平均正答率が8割程度	B	・朝学習・えんびつタイム・さくらタイム(放課後学習)を通して、国語・算数の基礎学力の定着に努めた。 ・算数部・国語部を中心に評価テストの見直しを行い、学力保証に努めた。 ・さくらカフェ(校内研修の場)を実施し、授業力向上に努めた。 ・「授業は分かりやすい」と答えた児童は6年生90%・5年生88%となった。 ・「めあて」「ふりかえり」を意識して授業を組み立てることにより、わかる授業に近づけること	・引き続き朝学習・えんびつタイム・さくらタイムを充実させ、学習に不安のある児童と向き合う時間を増やしていきたい。 ・研究推進担当を中心に授業力・学級経営力の向上を図れるような研修を計画的に進める。	大型ディスプレイが効果的に活用されており、子どもたちの学習意欲を喚起していると思われる。全国学力・学習状況調査における成果を期待する。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。	・授業における観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。 ・単元の中で、グループや全体において、自分の考えを伝え合うなどの話し合いの場面を設定する。 ・朝学習での読書、長期休業中の貸出冊数の増加、学期に1回の「読書週間」の推進、学級文庫の充実により読書習慣作りを進める。	・国語の記述問題において、無答率が0%になる。 ・ワークシートや授業の振り返りの記述に、考えの深まりが見られる。 ・児童アンケートで「本をたくさん読んでいますか」と回答する割合が80%以上になる。	B	・授業のふりくりができるようなワークシートを作成して、考えを深めることができた。 ・グループ活動を有効に取り入れる方法を考え、主体的に学習できる場を作れるように努めた。 ・読書週間、朝読書、市の図書館からの貸し出しなど読書指導に努め、本の好きな子どもは多い。しかし、依然「学校の本を多く読んでいる」と回答した子どもは60%にとどまっている。	・ワークシートの有効な活用を図るとともに、さらに児童間で活発に学習が進められるようにグループ活動の充実に努めていく。 ・読書の習慣がつくように家庭にも呼びかけ、推進に努める。	家庭における読書がさらに推進されるように工夫していただきたい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板や実物投影機等のIT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。 ・さくらノートの活用や、家庭学習の目標時間(低学年30分、中学年60分、高学年90分)を達成させる。	・児童生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が85%以上になる。 ・授業で、電子黒板や実物投影機などのIT機器の活用を努めた割合が80%以上になる。 ・低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。	B	・先生は教え方に工夫している」と答えた児童は90%を超えている。 ・ICT機器を利用して、授業を展開しようとしている教員が多い。 ・家庭学習の時間については、低・中学年は目標時間を達成しているが、高学年においては目標時間に満たず、課題の出し方に課題が残る。	・さらにICT機器の活用を努める。 ・家庭学習については、内容の充実に努めていく。	基本的な生活習慣の改善とともに、家庭学習習慣の啓発にも努めていただきたい。
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	・不登校児童の未然防止に努める。	・1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うとともに、関係機関との連携を密にし、保護者への粘り強い働きかけを行う。	・不登校児童数が0人になる。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。	B	・1日の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行うと回答した教員が80%を超えている。 ・「他人への思いやりについて教えてもらっている」と答えた児童は90%以上であった。	・家庭とのつながりを深めるとともに、ケース会議や職員会などで職員間の共通理解を図り、状況を見極める。	生徒指導加配教員を中心に組織的な生徒指導体制を構築していただきたい。
	豊かな心の育成	・道徳の授業をはじめ、いろいろな場で違いを大切にしたい児童理解に努め、違いを認めあえる子どもを育てる。	・各学期はじめの月を「あいさつ月間」と位置づけあいさつ運動に取り組む。 ・各学期1回は、「いじめアンケート」調査を実施し、その対応を図る。 ・インクルーシブ教育の推進に努める。	・児童アンケートにおいて、「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「クラスで、命を大切にすることやいじめやいたずらをされた人の気持ちを考えていますか」と回答する割合が85%以上になる。	B	・先生や友だちにすすんであいさつしている」と回答した児童は80%弱であった。児童会中心にあいさつ運動を工夫して行った。 ・「命を大切にすること、いじめやいたずらされた人の気持ちを考えています」と回答した児童は、90%以上であった。	・さらに、あいさつの大切さを提示し、あいさつ運動の推進に努める。	地域としてもすこやかネット等を通して、挨拶の大切さを継続的に啓発していく必要がある。
	体力の向上	・生活の中で自ら進んで運動に親しむ児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。	・体力作りの研修会を持ち、体育時にサーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。 ・冬期の業間休みに週一回耐寒訓練を実施する。 ・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増やす。	・スポーツテストの伊丹市の目標指数100(県平均)を超える。 ・「体育がすき」という子どもが8割以上になる。 ・半数以上の児童が業間休みに運動場で遊ぶ。	B	・本稿は今年、スポーツテストの目標指数を超えた。 ・児童の体力作りについての研修を行った。「運動能力や体力の向上を図り、根強い児童の育成に努めた」と回答する教員は85%を超えている。	・スポーツテストの結果を踏まえ、さらに運動能力や体力の向上について取り組んでいく。	体力調査において、大きな伸びを示している。先生方の取組に感謝する。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・色々な機会をとらえて、積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを月1回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・懇談時等で保護者の願いや意見を聞き、情報を発信する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応じている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。	A	・学校通信(学校だより)の発行、ホームページの更新は十分にできた。と考える。「情報を十分に発信している」と回答した保護者は90%以上であった。 ・「学習の場として活動しやすい環境が整っている」と回答した保護者は95%であった。 ・「学校は保護者の願いに応じている」と回答した保護者は90%であった。	・幅広い視点で発信することで、保護者の関心を高めたい。	コミュニティスクールがスタートすることから、さらに、学校と地域・保護者が情報共有していきたい。
<p>学校関係者評価総括                  学力、体力ともに、成果が表れつつある。今後も、安全・安心を第一に、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成をお願いしたい。コミュニティスクールによって、さらに、学校と地域・保護者の連携が深まることを望む。</p>								
<p>次年度に向けた重点的な改善点                  「分かる授業」の創造と、基礎基本の定着を図るための手立てを構築し、学力の向上を目指す。また、家庭と連携して読書週間の定着を図る。</p>								